

2025 年度 事業報告

[1] 福祉会の実施事業について

よさみ野福祉会として、当該年度に行った事業の概要は以下の通りとなる。

- 1 障害福祉サービス 生活介護
- 2 障害福祉サービス 共同生活援助
- 3 障害福祉サービス 特定計画相談事業
- 4 障害福祉サービス 短期入所事業
- 5 実習・ボランティア等受入

[2] 生活介護事業について

1 実施場所(2か所)

よさみ野障害者作業所	(定員30)
第2よさみ野障害者作業所	(定員15)

2 定員および利用実績について

(a) 定員	45 名	昨年(45)
(b) 利用者数	43 名	(43)

※ 利用者については、年度当初の42名から7月に1名が加わり、43名となった。

(c) 開所日数	253 日	昨年(254)
(d) 延利用者数	9967 人	(9904)
(e) 平均出席率	92.69 %	(90.68)
(f) 平均障害程度区分	5.28	(5.28)

※ 開所日数は前年と同じものの、7月から名の利用者が増えたことで延べ利用者数は増加することになっている。平均出席率、また平均障害程度区分についても、若干の上下はあるものの依然、高い水準を維持していると考えられます。

[3] 共同生活援助事業について

1 実施場所(2か所)

ぼむ	(定員5)
こりす	(定員4)
らんぶ	(定員4)

2 定員および利用実績について

(a) 定員	13 名	昨年(13)
(b) 利用者数	13 名	(13)
(c) 開所日数	365 日	(365)
(d) 延利用者数	4153 人	(4171)
	(内 ぼむ	(1459)
	(内 こりす	(1446)
	(内 らんぶ	(1266)

(e)	平均利用率	87.9 %	(87.9)
	(内 ぼむ)	79.12 %	(79.95)
	(内 こりす)	98.9 %	(99.04)
	(内 らんぷ)	86.64 %	(86.71)
(f)	平均障害程度区分	5.27	(5.25)
	(内 ぼむ)	5.58)	(5.53)
	(内 こりす)	5.00)	(5.00)
	(内 らんぷ)	5.24)	(5.22)

※共同生活援助においてはメンバーの変更はなく、また、おおむね想定された利用状況であったため、昨年とほぼ同様の結果に落ち着いている。

各共同生活住居ごとに平均利用率に差異が見られるのは、週末などでの帰省の状況の有無を反映したものになっている。

[4] 短期入所事業について

1 実施場所(1所)

らんぷ (定員4)

2 定員および利用実績について

(a)	定員	4 名	昨年(4)
(b)	利用者数(名簿)	16 名	(19)
(c)	開所日数	251 日	(254)
(d)	延利用者数	1009 人	(949)
(e)	平均利用人数(1日)	4 人	(3.7)
(f)	平均障害程度区分	5.32	(5.15)

※短期入所においては、年間での利用者の増減はありませんでしたが、延べ利用者数が増えており、かつ1日当たりの平均利用人数が増えていることから、個々の利用回数が増えている傾向がうかがわれます。しかも、平均障害程度区分も若干ながら高まっており、障害の困難な利用者ほど、その需要が高まっていることがわかります。

[5] 特定計画相談事業について

1 実施場所 よさみ野障害者作業所

2 利用実績

(a)	利用者数(名簿)	44 名	昨年(41)
(b)	開所日数	254 日	(254)
(c)	延利用者数	244 名	(217)
	※利用支援あるいは継続支援の利用のあった回数			
	(内 利用支援	35)	(39)
	(内 継続支援	211)	(178)
(d)	加算算定数	490 回	(449)

※年度内での利用者名簿(総数)では、当初41名から3名の追加、3名の契約解除があり、年度末の名簿人数は41名となった。特徴として利用支援ではなく継続支援の回数が増加している点、および各種加算の算定数が大きく伸びているところに、計画だけではない、相談支援の実態が浮かび上がってきている。

[6] 行事等の開催あるいは参加について

1 行事への参加

12月20日 合同クリスマス会 日帰りバス旅行1→次年度4月へ 日帰りバス旅行2→次年度4月へ	一昨年 12月21日 合同クリスマス会 3月7日 日帰りバス旅行1 3月19日 日帰りバス旅行2
---	--

2 販売(授産)

(a) 区役所販売(毎月 第1・3月曜日)	実施回数	21 回
(b) なごみ(毎週木曜日)	実施回数	42 回(休み8回)
(c) 他 10月25日 住吉区民まつり		

[7] 実習・ボランティア等受入

1 介護体験実習等(大学生・介護・教職課程)

実習参加者	28 名	昨年(23)
延べ実習日数	134 日	(161)

2 利用体験実習

実習参加者	2 名	昨年(1)
延べ実習日数	4 日	(1)

[8] 職員関係

1 雇用職員

管理者・サービス管理責任者 4 名
(相談支援専門員1名含む)

(生活介護)	常勤	非常勤	他と兼務
生活支援員	20 名	7	13
調理員	2 名		2
医師	1 名		1
看護師	1 名		1

(共同生活援助)	常勤	非常勤	他と兼務
生活支援員	10 名	3	7
世話人	7 名		7

(短期入所)	常勤	非常勤	他と兼務
生活支援員	5 名	1	4

2 実施職員研修

年間研修回数	38 回	
延参加人数	86 名	
(新人研修関係)	1 回	1 名)
(人権研修関係)	4 回	15 名)
(支援研修関係)	8 回	29 名)
(実務研修関係)	8 回	12 名)
(運営研修関係)	3 回	3 名)
(地域福祉研修関係)	1 回	1 名)
(サビ管/更新関係)	2 回	2 名)

[9] その他、年度を通して

実際の事業運営は、短期入所の延べ利用者数の増加および相談支援の回数の実質増加など、地域での困難事例に対応したケースが増えつつある傾向があり、作業所等施設運営は例年と変わらない実施状況がみられます。

ただし、内情では新たな加算と同時に職員の事務負担は確実に増加しており、付け加えるなら年度内には人材の確保や育成に係る助成金、降ってわいたような令和8年度の臨時報酬改定など、目まぐるしいほどの変化が見られました。

その一方、人材育成という風潮と、助成金の後押しをもとにオンデマンドを中心とした職員研修の取り組みを行い、例年に倍する研修の機会、そして非常勤職員にも積極的に参加を促すことで延べ参加人数でも大幅に増加することができました。

今後は、さらなる人材育成の機会を模索しつつ、その成果を実践の中に反映させ、より充実した支援の実施につなげていくという方向性ととも、その新たな担い手を迎え入れていくことが何より重要になってきています。